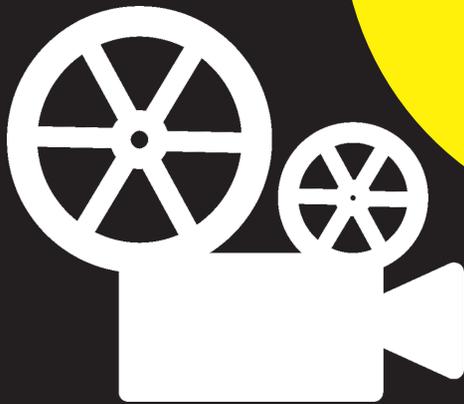


シンポジウム  
「歴史と記憶とオーラル・ヒストリー」

2016. 3. 19 Sat.  
13:30 ~ 17:30



▶ 場所 慶應義塾大学三田キャンパス  
北館ホール  
▶ 司会 有末 賢（慶應義塾大学法学部教授）

▶ 報告者 蘭 信三（上智大学教授）

「ライフストーリーによる社会学的歴史研究の可能性」

大門 正克（横浜国立大学教授）

「オーラル・ヒストリーによる歴史学的歴史研究の可能性」

都倉 武之（慶應義塾福澤研究センター准教授）

「『戦争と慶應義塾』をめぐるオーラル・ヒストリー  
— 記憶とモノを如何に繋ぐか —」

▶ コメンテーター 柳沢 遊（慶應義塾大学経済学部教授）

小林 多寿子（一橋大学教授）

▶ 懇親会 17:30 ~ 19:30 南校舎4階 カフェテリアB

▶ 主催 慶應義塾福澤研究センター  
日本オーラル・ヒストリー学会  
三田社会学会

▶ プログラム 開会 13:30  
シンポジウム報告 13:35 ~ 15:15  
休憩 (15分)  
コメント 15:30 ~ 16:00 + リスライ 16:00 ~ 16:30  
総合討論 16:30 ~ 17:20  
閉会の挨拶 (司会からまとめ、挨拶 10分)

歴史研究、特に近・現代史において用いられることの多い、オーラル・ヒストリーや聞き取り、インタビューという形式。生存者の戦争の記憶が薄れてくる戦後70年を超えた今日において、多岐に渡る歴史研究にとって当事者の語り、家族や子供たちの記憶、またモノの収集や遺跡・遺物の保存・収集などはオーラル・ヒストリーとどのように関係していくのであろうか？ また研究者の「位置取り」や資料作成過程におけるインタビュアーの介入などをどのように考えたらよいのであろうか？ 今回、シンポジウムという形で、戦後日本社会における歴史と記憶とオーラル・ヒストリーについて総合的に考察していきたい。

※入場無料、事前申し込みは不要です。